



東日本復興支援事業

読者からの熱い思いを東北へ!



お問い合わせは
こちらへ

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 中日新聞社内
TEL: 052-221-0580 (平日10:00~17:00) Eメール: robola@chunichi-shakaijigyo.jp

事業団に関する詳細は
HPをご覧ください ▶ <http://www.chunichi-shakaijigyo.jp>



中日新聞社・中日新聞社会事業団



ロボラ

東日本復興支援事業について

「社会福祉法人中日新聞社会事業団」の本部、各支部へ寄せられた寄付金をもとに、東日本大震災復興に関する事業、ならびに福島、宮城、岩手各県の保健、福祉の向上に関する事業を行う団体に対し、助成を行います。

 **コミュニティ**
地域住民の生活、福祉向上などの支援活動

 **障害**
障害者の支援活動

 **子ども**
児童の生活、進学、学業を支援する活動



富谷傾聴の会



東北大学陸前高田応援サークル
ぽかぽか



ARTS for HOPE



NPO法人
チームふくしま



いいのどんぐりの会



NPO法人
南相馬サイエンスラボ



NPO法人
陸前高田まちづくり
協働センター



NPO法人
パクト



一般社団法人
復興みなさん会



一般社団法人
ワタマスマイル



一般社団法人
震災こころのケア・ネットワークみやぎ
からころステーション



チャイルド工房




CONTENTS

東日本復興支援事業について	1
ごあいさつ	3
中日新聞社会事業団とは	4
過去の配分実績	5



宮城県

 一般社団法人 震災こころのケア・ネットワークみやぎ からころステーション	7
 チャイルド工房	9
 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	11
 一般社団法人 復興みなさん会	13
 富谷傾聴の会	15
 一般社団法人 ワタマスマイル	17
 ARTS for HOPE	19

福島県

 NPO法人 南相馬サイエンスラボ	21
 NPO法人 チームふくしま	23
 いいのどんぐりの会	25

岩手県

 NPO法人 パクト	27
 NPO法人 陸前高田まちづくり協働センター	29

東日本大震災と中日新聞社	31
--------------	----

東日本復興支援金に寄せて

中日新聞社会事業団 理事長 佐藤 修造

昨年の暮れ、宮城県石巻市の海岸に近い被災地を尋ねました。防潮堤造りが進んでいましたが、それより海側は家が建てられないとのことでした。防潮堤に近い家は外観は残っていましたが、震災以来誰も住んでいないといいます。そんな中で、懸命に被災者を支えようとしている多くの人に出会いました。彼らは、彼女らは自分のすべての生活を、被災者に寄り添う活動に捧げていました。

震災から9年。少しずつ人々の記憶から薄らいでいくように見える東日本大震災。国や自治体の支援も少なくなっていく中で、中日新聞読者や中部・関東の企業などから今でも多くの支援金が寄せられています。その尊い、熱い思いを被災地にどう届けるか。その結論が被災地で懸命に活動している団体に必要な資金の一部として使ってもらおうということです。

今年1月に復興庁がまとめた避難者は、47都道府県、980市区町村で、4万8千人に上っています。そのうち3万6千人が震災前の居住地とは異なる都道府県に避難しています。そうした人にどうしたら寄り添えるのか。我々に何かできることはあるのか。答えは出ません。

しかし、被災地で懸命に頑張っている人たちがいることを知ってもらえれば、被災地まで行かなくても、自分たちの近くで、ささやかでも自分にできることに取り組んでもらえるのではないかと。

新聞という媒体を通して、また活動を紹介する冊子を作ることで、支援の輪を広げたいと考えています。心の復興は終わりのない旅だと思います。しかし、くじけることなく、希望をもって、前に進んでいってほしいと心から願っています。

配分委員の皆さん

委員長	佐藤 修造	中日新聞社会事業団 理事長
委員	垣尾 良平	中日新聞社会事業団 常務理事
	榊原 英夫	愛知県共同募金会 企画調整課長
	田崎慎太郎	同朋大学社会福祉学部 元講師
	倉橋 幸彦	NPO法人fun life 理事長

愛知県名古屋市を本社に持つ中日新聞ならびに東京新聞の読者を中心とした企業や個人などから寄せられる善意の寄付金をもとに、本部（名古屋）と4支部（東海、北陸、東京、岐阜）において、年間220件にのぼる児童、心身障害児・者、老人、医療など幅広い分野の社会福祉事業や公益事業の主催、共催、後援、助成金支援の事業を行っています。

児童福祉の分野では、名古屋近郊の日進市で児童養護施設と児童心理治療施設を併設した児童福祉施設「中日青葉学園」を運営しており、ファミリーホームや里親家庭などと連携し社会的養護が必要な児童への支援を手厚く行っています。

また、新聞社に協力し東日本大震災他各地域で発生した災害義援金を広く募集して被災地へ義援金を届ける活動も行っています。その経験から生まれた「東日本復興支援金」は、義援金以外の復興支援として多くの方の共感を呼んでいます。

主な福祉事業

福祉	児童福祉	児童福祉施設に入所している子どもたち、ファミリーホームや里親家庭の子どもたちへの支援 交通遺児支援、母子・寡婦などひとり親家庭への支援 生活保護家庭の小中学生にお年玉を贈る活動 ※年末のみ
	心身障害児・者福祉	特別支援教育の作品展やスポーツ大会 特別支援教育振興のための研究助成金贈呈 障害者団体への支援、スポーツ大会や作品展などでの表彰
	高齢者福祉	老人福祉施設作品展、講演会など
	医療福祉	難病者団体に激励金を贈呈/ 難病団体、患者・家族会への支援
災害支援	中日青葉学園	児童養護施設「あおば館」/ 児童心理治療施設「わかば館」
	災害義援金・救援金	随時発生した災害に対する支援（義援金実績は下記一覧） ※現地の災害対策本部などへお届けします
	東日本復興支援金	東日本大震災で被災した地域の、行政でカバーできない福祉団体や被災者支援活動を行っている団体への支援 ※義援金とは異なります

主な災害義援金実績（令和元年12月31日現在）

阪神大震災義援金	平成7年1月	84,104件	5,790,979,873円
東海豪雨災害義援金	平成12年9月	2,209件	421,966,342円
東日本大震災義援金	平成23年3月～平成31年3月	95,339件	9,088,915,451円
広島土砂災害義援金	平成26年8月	802件	30,668,185円
熊本地震義援金	平成28年4月	13,932件	1,091,554,693円
九州豪雨義援金	平成29年7月	2,025件	75,293,523円
西日本豪雨義援金	平成30年7月	9,240件	529,263,200円
台風19号義援金	令和元年10月	6,634件	259,360,432円
東日本復興支援金	平成26年8月～	1,107件	72,624,183円

各支部所在地

(株)中日新聞社	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 Tel. 052-201-8811 (大代表)
中日新聞社会事業団本部	〒460-8511 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号 中日新聞名古屋本社内 Tel. 052-221-0580 Fax. 052-221-0839
中日新聞社会事業団 北陸支部	〒920-8573 石川県金沢市西本町二丁目12番30号 中日新聞北陸本社内 Tel. 076-233-4644 Fax. 076-233-7831
中日新聞社会事業団 東海支部	〒435-8555 静岡県浜松市東区葉新町45番地 中日新聞東海本社内 Tel. 053-421-7711 Fax. 053-421-5987
中日新聞社会事業団 東京支部	〒100-8505 東京都千代田区内幸町二丁目1番4号 中日新聞東京本社（東京新聞）内 Tel. 03-6910-2520 Fax. 03-3503-1438
中日新聞社会事業団 岐阜支部	〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地 中日新聞岐阜支社内 Tel. 058-265-0283 Fax. 058-263-7010
児童養護・児童心理治療施設 中日青葉学園	〒470-0131 愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164 Tel. 0561-72-0134 Fax. 0561-74-2315

過去の配分実績

第1回～第4回の配分先

	所在県	団体名	活動内容
第1回	福島県	一般社団法人 ふくしま原発避難子供・若者支援機構 (たまきはる福島基金)	ふくしま原発避難子供・若者支援機構 ・運営費
		NPO法人 アクセスホームさくら	指定障害福祉サービス 就労継続支援B型 ・備品購入費
第2回	宮城県	NPO法人 MMサポートセンター	自閉症スペクトラム症を中心とした発達障害児の相談・検査・療育事業 ・建物修繕費用
		NPO法人 アスイク	被災した低所得世帯の学習支援・居場所づくり事業 不登校の子どもの対象としたフリースクール事業 ・運営費
		社会福祉法人 山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所	指定障害福祉サービス事業所 ・建物修繕費用
	岩手県	NPO法人 愛ネット高田	車両による福祉無償運送事業 介護保険事業(居宅支援事業、訪問介護事業) ・運営備品購入費
		NPO法人 かまいし共生会 グループホームかみくり荘	共同生活援助(精神障害者の自立支援のための生活援助) ・居室など改繕費
		NPO法人「居場所」創造プロジェクト	高齢者を中心とした居場所づくり事業 ・運営費、備品購入費
第3回	宮城県	一般社団法人 みやぎ連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(人件費・旅費・研修参加費)
	福島県	一般社団法人 ふくしま連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(旅費・会議費)
	岩手県	NPO法人 いわて連携復興センター	震災復興に特化した中間支援団体 ・事業運営費(人件費・旅費・講師謝礼金・交通費)
第4回	宮城県	NPO法人 仙台傾聴の会	被災地での傾聴支援 ・事業運営費(人件費・会場費他)
		一般社団法人 まなびの森	被災地で増加する不登校児の居場所づくり事業 ・事業運営費(人件費・会場費他)
		障害福祉サービス事業所 くじらのしっぽ	障害者の就労継続支援 ・修繕費(トレーラーハウス改築費他)
		東北大学復興youth	東北大学の学生を中心とした被災地でのボランティア ・事業運営費(宿泊費・交通費)
福島県	NPO法人 チェルノブイリ救援・中部	福島県での原発被災者支援 ・招へい旅費、印刷代	
	NPO法人 いわき自立生活センター	障害者の就労支援・介護事業等 ・軽トラック車両費	
	NPO法人 ビーンズふくしま	不登校児や引きこもり児童の居場所づくり事業 ・事業運営費(人件費・車輛リース代)	
岩手県	一般社団法人 ほまれの会	障害者就労継続支援B型事業所 ・事業運営費(人件費・備品購入費)	
	NPO法人 いなほ	内陸避難者の孤立防止事業 ・事業運営費(人件費・材料費・印刷代)	

くじらのしっぽ(平成30年度配分団体)

〈寄付者へのありがとうメッセージ〉

「くじらのしっぽ」は、宮城県牡鹿半島の先端・鮎川で障害者就労支援活動を行ってまいりました。東日本大震災により、高台にあった施設は石巻市の避難所として活用され、利用者もそこで避難生活を送りました。営業できたのは、震災から6カ月後でした。(中略)再開した塩造りは、金華塩、バジル塩、お守り塩、石巻の塩サイダーとして商品化。

この度の東日本復興支援金助成により、事業所単独の商品を、

横浜市の「スローレーベル」と共同で世界に向けた商品開発を実現しました。

現在も、助成金を活用して新商品の開発に力を入れています。この商品は、今年開催のオリンピック、パラリンピックでの起用を目指しています。世界的に金華塩を知ってもらうことで、牡鹿半島の今後の復興に少しでも繋がればと思います。

これからも、塩事業の発展に向けて進めていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



牡鹿半島伝統の塩



トレーラーハウス内の商品展示・販売



メンバーの作業風景

ほまれの会(平成30年度配分団体)

〈寄付者へのありがとうメッセージ〉

寄付をされた多くの皆様、そしてその善意を繋げて下さった中日新聞様、言い尽くせない感謝を心より申し上げます。お陰様でデニムバックは順調に受注が増え、受け取った方々にとっても喜んでいただいております。オйкаワデニムから糸切の委託もあり、昨年も事業所が手狭になるほど大忙しでした。忙しいという事はとても幸せです。役割があることは、生きるために

本当に必要であることを震災後思い知らされました。田んぼを流された年配の方々が、「春になって田んぼが無いからする事無い。」と呟いた言葉は、未だに忘れられません。人は障害の有無に関わらず、役割を持つことで自分の存在意義を見出そうとします。それを生涯探し続けながら生きていくのだと思います。(中略)どうぞこれからも被災地への応援を宜しくお願い致します。



支援金で購入したロックミシンでの作業



糸切り作業の糸を清掃するクリーナー



農園の管理を行う芝刈り機



一般社団法人 震災こころのケア・ネットワークみやぎ からころステーション

障害

団体所在地

〒986-0826 宮城県石巻市鑄銭場3-19 秋田屋ビル1階

Tel: 0225-94-2966

宮城県

団体事業内容

被災者の心のケア・障害者相談支援事業

申請事業の内容

復興事業の終了が近づき、自治体からの委託も減ってきているなかで、障害者相談支援事業を立ち上げました。時間とともに悩みを深くし孤立する障害者へのイベントを自主開催します。イベントへの参加を促し、自宅への訪問には車両が必要であり、今回の助成金で車両を購入します。



独居男性向けサロン“おじころ”風景



震災直後、県内や全国から集まったボランティアの訪問活動



からころステーションスタッフによるハローワーク相談会



若者の心の健康回復に有効な運動プログラムの様子



復興住宅団地の住民・被災者向け“お茶っこサロン”



子ども

チャイルド工房

団体所在地

〒986-0860 宮城県石巻市のぞみ野4丁目19-12

Tel: 0225-98-5662

宮城県

団体事業内容

震災後の幼児の遊び場確保、野外活動事業

申請事業の内容

自然遊びや作物栽培、収穫を取り入れた子どもからだそび塾を開催しています。助成金は、スタッフなどの活動人件費に充て、野外活動の回数を増やしていきたいです。



震災後、使用していた集会所がなくなり、石巻市鹿妻地区の施設を利用した親子調理体験



子どもからだ遊び塾サツマイモ植え付け作業



自然遊びの様子



小学1年～3年生対象のニンジンのかりんとう作り



収穫したキュウリを使い、セタそうめん作り



東北大学陸前高田応援サークル

ぽかぽか

コミュニティ

団体所在地

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41 東北大学課外・ボランティア活動支援センター気付

Tel: 022-795-4948

宮城県

団体事業内容

岩手県陸前高田市における東日本復興支援ボランティア活動

申請事業の内容

仮設、災害公営住宅、高台自宅再建地でのサロン活動、小学生への学習支援・遊び場作り支援など風化防止に取り組めます。



高田町中田災害公営住宅での足湯の様子



米崎町脇の沢災害公営住宅の住民とボランティア



子どもが安全に遊べるように準備する学生ボランティア



高田小学校の子どもとクリスマスケーキ作りの様子



気仙町今泉災害公営住宅で手芸を楽しむ住民とボランティア



一般社団法人 復興みなさん会

コミュニティ

団体所在地

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26 上山八幡宮社務所内

Tel: 070-5472-5930 (事務局)

宮城県

団体事業内容

仮設住宅・復興公営住宅のコミュニティ形成支援

申請事業の内容

南三陸町復興祈念公園を町民参加で運営するための支援、記録誌「復興みなさん会活動10年のあゆみ」発行による情報発信を行います。



自力で町内に帰宅できない人々を対象に実施された南方仮設住宅住民の椿のお花見会



伊里前復興住宅でいけばな交流



復興シンボル“椿”の育樹作業



志津川中央復興住宅自治会主催の芋煮会



福岡大学学生ボランティアによる津波避難路の下草刈り



富谷傾聴の会

コミュニティ

団体所在地

〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平1-2-38-301

Tel: 022-797-7814

宮城県

団体事業内容

地域住民の悩み、相談に耳を傾ける傾聴活動

申請事業の内容

助成金でパソコンを購入し、老人福祉施設での傾聴活動の資料を作成します。また、施設訪問のため、活動旅費にします。



特別養護老人ホームでの傾聴活動



大和町の介護老人保健施設で会員による傾聴の様子



活動ユニフォームを着たメンバーら



定例会では被傾聴者への対応状況など問題点も報告



県内の他の傾聴ボランティア団体と意見交換



一般社団法人

ワタママスマイル

コミュニティ

団体所在地

〒986-2122 宮城県石巻市幸町 2-3

Tel : 0225-98-4701

宮城県

団体事業内容

被災した高齢者・女性、子ども・障害者・ひきこもり者への食と就労支援

申請事業の内容

地域食堂を中心にした石巻市渡波地区の福祉的居場所づくりと地域コミュニティ再生に取り組みます。



ワタママ食堂での弁当作り



渡波地域子ども食堂



地域の人々と食事会



子ども食堂で地域のボランティアやワタママスマイルメンバーによるケーキ作りの様子



メンバーによる子ども学習支援



ARTS for HOPE

障害

団体所在地

〒984-0073 宮城県仙台市若林区荒町172 第一旭ビル2階 ワンダーアートスタジオ

Tel: 080-5871-6989

宮城県

団体事業内容

被災し、心にダメージを抱えた子ども・高齢者へアートに特化した支援事業

申請事業の内容

東北三県の支援学校・福祉施設での訪問事業や障害児者の支援を行います。公開型作品展の開催も予定します。



福島県南相馬市で障害のある子どもとその家族を対象にしたスペシャルプログラムを開催



仙台のスタジオで展覧会を開催



広いスペースで伸び伸びと表現活動を行うメンバー



障害の有無や種別に関係なく表現の可能性を伸ばすクラスの様子



支援学校で10mの巨大キャンパスに絵を描く小学部の生徒



NPO法人

南相馬サイエンスラボ

コミュニティ

団体所在地

〒975-0002 福島県南相馬市原町区東町 2-50

Tel : 0244-26-6286

福島県

団体事業内容

親子を対象にした自然科学・農業食育・環境保護・歴史文化の体験教育

申請事業の内容

稲刈り体験交流事業を引き続き開催し、被災地の風評被害払拭に取り組めます。



只見振興センターでの親子科学実験教室



南相馬市立大甕幼稚園児のバケツ稲の田植え



風評被害払拭「サイエンスラボ米」の収穫



相馬野馬追の伝統を継承する親子乗馬体験教室



奥州中村藩旧武山家住宅で侍体験



団体事業内容

「福島ひまわり里親プロジェクト」と題してひまわりを復興のシンボルとして咲かせることにより雇用、教育、観光につなげる。日本全国と福島の絆を深める。

申請事業の内容

福島県内の福祉作業所へひまわりの種の袋詰めなどを業務委託し、障害者への雇用促進を図ります。



福島県田村市開催のひまわりの種まきの様子



福祉作業所でのひまわりの種の袋詰め作業



プロジェクトに参加する“里親さん”の種まき



全国から届いた種で咲いたひまわり畑



プロジェクトを通じて生まれた物語「ひまわり甲子園」の発表会



コミュニティ

いいのどんぐりの会

団体所在地

〒960-1304 福島県福島市飯野町大久保字馬場田1 まつぼっくり集会所内

Tel: 024-572-3677

福島県

団体事業内容

飯館村民と地域住民の心と身体の健康を図る事業

申請事業の内容

陶芸、クラフトワーク、手作り石けんなどのワークショップの開催を考えています。



地域住民とどんぐりの会メンバーでの「親子で料理作り」開催



せっけん作りを体験するメンバーら



親子での製作風景



大きめの買い物かご製作教室



多様なかごの編み方も習得し地域住民との交流も深まる



団体事業内容

県内外からのボランティア受け入れ窓口、陸前高田の親子を対象とした居場所づくり活動の運営など

申請事業の内容

住民から寄せられるニーズは多様化し、より生活に密着した依頼が多くなっています。今後も地域住民とボランティアをつなぐ陸前高田市復興サポートステーションの運営に役立てます。



活動先へ向かうボランティアとスタッフ



ボランティアへオリエンテーションを行うスタッフ



防災学習の一環で県内中高生による除草作業



仮設から公営住宅へ高齢者引っ越し作業を手伝うボランティア



仮設住宅で環境整備を行うボランティア



NPO法人

陸前高田まちづくり協働センター

コミュニティ

団体所在地

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字荒町33番地 陸前高田市チャレンジショップC-2

Tel: 0192-47-4776

岩手県

団体事業内容

自主的・自発的に地域づくりに取り組めるように市民活動の相談支援、担い手育成、担い手のつながり作りを支援

申請事業の内容

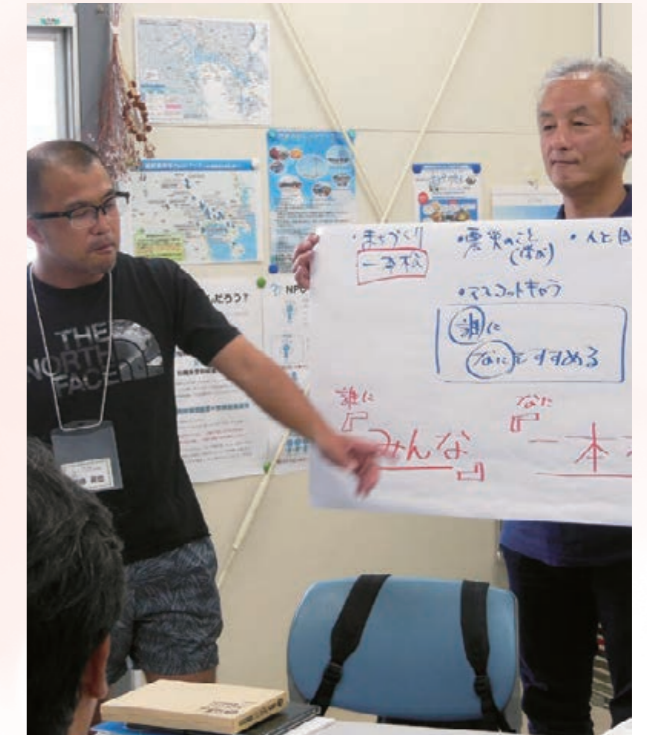
地域が抱える課題解決、活力向上に取り組む住民に対して、必要なノウハウ・スキル・情報の提供を行います。そして誰もが住み慣れた地域で暮らせるように支援します。



女性支援の市民活動団体によるアロマクリーム作り講座



講師から手ほどきを受けてアロマクリーム作りに真剣な参加者



復興まちづくりの担い手が地域活性のアイデアを発表



まちづくりの活動を市民に伝える広報の方法を学び合う講座



健康・介護予防などに役立つ料理講座の様子

東日本大震災と中日新聞社

中日新聞社は、昭和17年に「新愛知新聞社」と「名古屋新聞社」が合併して誕生しました。前身の両新聞社は、新聞発行以外に社会事業や慈善事業にも力を注いでいました。

社会事業という言葉がまだ無いころのことです。名古屋新聞が困窮者への慈善事業や現在の「子ども食堂」のルーツでもある「簡易食堂」など市民の生活向上に熱心だった一方、新愛知は義援金に力を入れていた歴史があります。

古くは、明治24年の濃尾地震にまでさかのぼります。また、大正12年の関東大震災では、大島宇吉社長が社員を指揮して、義援金を募集したと社史にも残っています。

新聞社が自然災害の義援金を募集する始まりではないかと思えます。

東海地域を襲った伊勢湾台風は、戦後最大ともいえる水害で昨年は60年の節目の年でした。

東日本大震災や熊本大地震の際に、たくさんの読者から義援金を寄せていただきました。口々に「伊勢湾台風でお世話になったので、他人事ではなく寄付にきました」という方々は多かったです。

中日新聞社に寄せていただいた東日本大震災義援金は、90億8,800万円を超えて各被災地の復興の一助となりました。その金額は、他の新聞社と比べて格段に多く、この地域には「困ったときはお互いさま」精神が残っているとと言えます。

東北関東大地震 災害義援金受け付け

本社と中日新聞社 5) 02833 中日新聞社
 東北・関東大地震で大きな被害を受けた地域の被災者を救済するため、義援金を受け付けます。
 受付先：中日新聞社 会社本部 岐阜県在住者
 〒500-0005 岐阜市柳ヶ樋
 受付時間：月～金 9:00～17:00
 電話：058(26)0558
 送金手数料は0.5%（2万円未満は0.5%）を別途お支払いください。
 被災者への義援金は、被災者支援基金として活用させていただきます。

2011年3月12日付一面

地震津波 死者千人超す

三陸沖M8.8 国内最大

震度7 東北・関東で被害

震度7の揺れが東北・関東地方を襲った。津波は沿岸部を襲い、死者が1000人を超えた。東北地方を中心に、多くの家屋が倒壊し、大規模な被害が出ている。津波の高さは最大30メートルに達した。被災者は多く、救助作業が続いている。

原子力緊急事態を宣言

福島第一原子力発電所から放射性物質が漏れ出す恐れがあるとして、政府は緊急事態を宣言した。避難指示区域は拡大された。住民は避難を要する。原子力規制委員会が調査を進めている。

福島・南相馬 1800世帯壊滅

福島県南相馬市では、津波の被害が深刻化している。1800世帯以上が壊滅したと推定されている。住民の生活は壊滅的被害に直面している。

気仙沼 沼火の海

気仙沼市では、津波による火災が発生している。津波が引いた後に、火が燃え広がった。消防隊員が懸命に消火作業を行っている。

2011年3月12日付一面

義援金2次分32億円

宮城・岩手・茨城・千葉 被災4県へ

中日新聞社と中日新聞社 義援金2次分32億円を被災4県へ送付した。宮城、岩手、茨城、千葉の4県に届けられた。被災者への支援に感謝している。

義援金3万円寄託

伊勢・北浜中生徒会 回収アルミ缶売却益で

伊勢湾台風で被災した地域への義援金として、伊勢湾の中学生が回収したアルミ缶の売却益を3万円を寄託した。被災者への支援に貢献している。

2011年5月21日付一面

困ったときはお互いさま

義援金事業

「困ったときはお互いさま」の精神で、被災者への支援に力を注いでいる。義援金事業を通じて、被災者への支援に貢献している。

県内版

被災者への支援に力を注いでいる。県内版を通じて、被災者への支援に貢献している。

読者の善意復興後押し

読者の善意が被災者の復興を後押ししている。読者の善意が被災者への支援に貢献している。

2017年12月22日付県内版

読者の善意復興後押し

被災者への支援に力を注いでいる。読者の善意が被災者への支援に貢献している。

人口減 対応課題

被災地では人口減少が進んでいる。人口減少への対応課題となっている。

東日本大震災 義援金志礼

区分	金額
合計	4,741,505,000円
伊勢	2,386,175,000円
岐阜	1,914,650,000円
愛知	327,109,330円
下関	109,600,000円

東日本大震災義援金志礼の表。合計4,741,505,000円。伊勢が2,386,175,000円、岐阜が1,914,650,000円、愛知が327,109,330円、下関が109,600,000円。

2019年4月26日付三社面抜粋